



結露の発生を防ぐにはどうしたらいいの？

いくら新築の家でも結露の発生は避けられません。しかし、普段からの心がけで防ぐことができます。ポイントをおさえて、永く快適に暮らせる住まいづくりをしましょう。

結露対策

水蒸気の発生を抑える

1

室内で発生する水蒸気に無関心だった生活から、水蒸気の発生を抑える生活へ。暮らし方や住まい方を少し工夫することも、結露の発生の軽減に役立ちます。

加湿器の使用は控えめに



お風呂のフタを開けっ放しにしない



洗濯物を室内に干さない



密閉型の暖房機や水蒸気が発生しない暖房機を使う



Point!!

室内の最適な環境は、
温度 20℃
湿度 50%だよ!



●カーテンや和障子などと窓との間

カーテンや和障子を開めると、開口部全体としての断熱性は上がります。逆に窓とカーテンや和障子との間に水蒸気を含んだ空気が滞留し、窓面は結露が発生しやすくなります。カーテンや和障子はこまめに開け、長時間閉めることは避けましょう。

●風が強く吹き込む方向の窓

風が強く当たる窓は、窓の熱が奪われ、表面温度が下がり、結露が発生しやすい状態になります。風が吹き込む方向に風よけを使用したり、木を植えたりして、風が窓に強く当たるのを防ぎましょう。

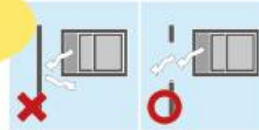
結露対策

換気をしっかりとる

2

水蒸気量をゼロにするのは不可能です。そこで、室内で発生した余分な水蒸気は、換気扇を回したり窓を開けたりしてこまめに外に排出するようにしましょう。

開口部は2カ所設ける



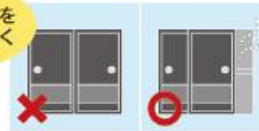
家具と壁面の間に5cmほどの空気層を設ける



調理後30分は換気扇を回す



冬は押入の戸を少し開けておく



結露は冷えている面ほど起こりやすく、窓サッシ→窓ガラス→壁面という順番で起こります。もし、窓ガラスの結露を発見したら、すぐふき取りましょう。空気中の水分が減るので除湿には効果的です。

Point!!

水蒸気が長時間部屋にこもらないようにこまめに換気しましょう。



●新築の家

新しく建てた家は、木材などに含まれていた多くの水分が、冬などの乾燥時に放出し、結露が発生しやすくなります。新築時1~2年は特にこまめに換気しましょう。

●ダイニングの吹き抜け

湯気は、空気の対流とともに上へ上がる性質があるため、ダイニングキッチンの吹き抜け部には、炊事や食事中に発生した水蒸気が集まり、結露が発生しやすくなります。換気扇を回して、こまめに換気しましょう。



●ふだん使っていない部屋

水蒸気の発生源がなくても、他の部屋から水蒸気が浸入してきます。室内の湿度も窓の表面温度も低いので、結露が発生しやすくなりますので適度に換気しましょう。

結露対策

3

断熱性の高い 住まいづくりを心掛ける

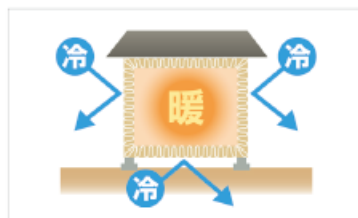
結露の発生を抑えるには、「室内で発生する「水蒸気」を減らす」、「発生した水蒸気を「換気」して外へ逃がす」、「空気を冷やすような「温度差」をつくらないこと」の3点です。

家の中には窓だけでなく、玄関・押入・物置・使わない部屋・北側の壁・床下など温度の低い場所がたくさんありますが、日頃の心がけだけでは、「温度差」は解決できません。そこで検討したいのが住まいの「断熱」です。

室内の熱の損失を防ぎ、部屋と部屋の温度差を無くすことで、冷暖房効果が向上し、結露の発生を抑えることができます。

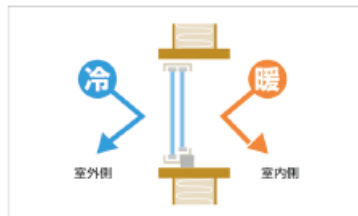
●断熱材で 壁をあたためる

断熱材は、外気の冷たさを室内に伝えにくくするとともに、建物の保温性を高め、室内温度が下がりにくくする効果があります。



●断熱サッシで 窓をあたためる

断熱サッシは、外気の冷たさを室内側に伝えにくくします。窓枠やサッシの室内側表面温度を下がりやすくすることで、結露の発生を抑えます。



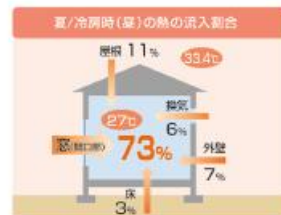
退散～!



豆知識

断熱で重要なのは窓

一般的な断熱仕様の住宅では、下図のように熱の流出があります。なかでも窓から失われる熱は全体の約58% (冬/暖房時)にもなります。そのため、住まいの断熱性を考えるならば窓(開口部)の断熱性能には十分配慮しなければなりません。



出典：(一社)日本建材・住宅設備産業協会より

コールドドラフト現象

室内の空気が窓で冷やされ、足元に流れてくる現象をコールドドラフトといいます。窓の断熱は、コールドドラフトを減少させ、足元の寒さや窓まわりの冷気を抑えます。

■冷気の流れ



■冷気の輻射



Point!!

窓から家全体の
約58%の熱が失われます。

(冬/暖房時の熱の流出割合)



Bye Bye!

